

千葉市のスポーツ推進への提言

令和6年3月14日

千葉市スポーツ推進審議会

はじめに

本審議会では、千葉市スポーツ推進計画に基づき、本市におけるスポーツを「する」「みる」「ささえる」「ふれあう」人口の増加を目指し、スポーツ施策について2年間審議を重ねてきた。

この2年間では、令和5年5月に新型コロナウイルスが5類に移行され、スポーツの分野においても活気が戻りつつある中、加えて少子高齢化の進行、テレワークの普及、デジタル化など人々の「働き方」や「生活様式」など、人々をとりまく環境は変化しつつあり、国の「第3期スポーツ基本計画」では、こうした変化する社会状況に合わせて、スポーツの価値を高めるべく、国内におけるスポーツ施策の方向性が示されている。

さらに、部活動の地域移行の検討については、市において外部委員と共に体制整備の検討や実証事業、指導者確保に向けた議論が重ねられてきている。

このような社会情勢の変化、技術の進歩等を踏まえ、多様化する市民のスポーツニーズに対応し、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツを楽しむ環境、スポーツに触れあうことのできる環境づくりに様々な視点から取り組む必要があると考えていることから、以下、その大要を申し上げる。

I スポーツ施策全体について

(1) スポーツの実施に意欲や興味のある人が中心に参加するようなイベントの実施だけでは、スポーツが苦手な人や、興味がない人との二極化が進む一方であることから、イベント内容については、どのような人でも楽しめることや日常的にできるスポーツを取り入れるなど、「する」スポーツのハードルを下げるような取り組みや、「みる」ことをきっかけに「する」ことへとつなげていく取り組みについて検討されたい。

(2) スポーツボランティアなどのスポーツを「ささえる」人はオリパラレガシーの1つである。「ささえる」人はスポーツの振興に大きく寄与する存在といえるため、市民が手軽にスポーツをささえる活動に関わることのできる機会等の創出について検討されたい。

II 部活動地域移行について

部活動地域移行を進めていくにあたっては、少子化・本市の地域的特徴・運動習慣の二極化・指導者の資質向上といった課題が想定される。そうした課題等を踏まえ、将来にわたって、本市の子どもたちがスポーツに携われる環境が構築されるよう、部活動地域移行の将来像や各施策を検討・実施されたい。

千葉市スポーツ推進審議会委員名簿

(五十音順、敬称略)

役 職 名	氏 名
会 長	小 川 直 哉
副 会 長	本 澤 英 雄
委 員	上 田 日 登
委 員	五 月 女 重 夫
委 員	高 橋 薫
委 員	馬 場 宏 輝
委 員	林 田 義 久
委 員	山 下 みゆき
委 員	山 根 和 子
委 員	吉 澤 裕 子